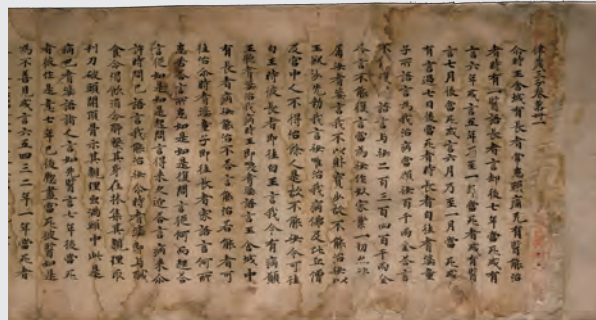
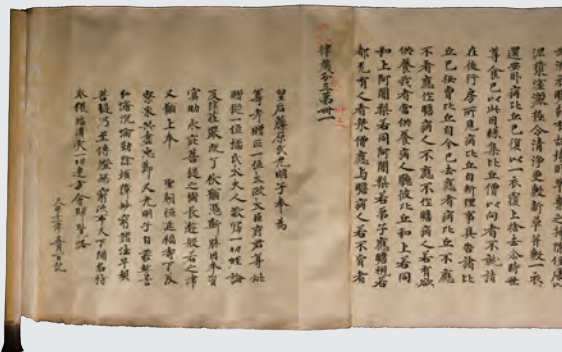


白河（本町）に生まれた岩淵悦太郎は、『岩波国語辞典』の編者としてもよく知られています。悦太郎は、元国立国語研究所長として現代日本語の言語研究環境を世界最先端のものに整備するという功績を残しましたが、本来の専門分野は、日本語の音の変化の歴史（音韻史）の研究でした。そのため、悦太郎が収集した古典籍のコレクションは過去の時代の日本語の音韻を知ることのできる資料が中心となっています。本展示では悦太郎の収集した貴重古典籍をご紹介します。

主な展示資料

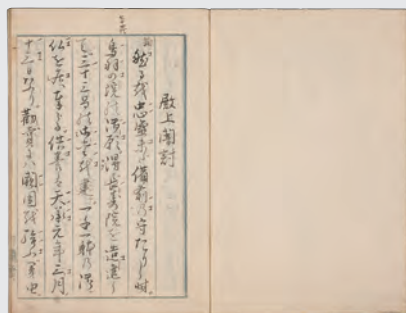
『願経四分律』巻第三十三東大寺聖語蔵旧蔵<奈良時代、写本>

奈良の大仏様よりも古い天平9(737)年の古写経です。



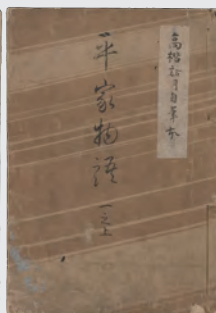
『三宝感応要略録』巻下フランク・ホーレー旧蔵<平安時代、写本>

説話研究者の間では行方不明とされていた最古の写本です。



『平家物語』高野辰之旧蔵本<江戸時代、稿本>

琵琶法師が平家物語の語り方を伝えるために記した記号が書き込まれています。岩淵の前の持ち主は専修大学校歌の作詞者・高野辰之で、巻末にこの本の来歴が書かれています。



『諸点図集』橋本進吉作成<大正時代、模写>

高野山の親王院に伝わっていた訓点（漢文を日本語式に読むための秘伝の記号）を一覧にした書物の模写です。

講演会・シンポジウム

白河から始まる日本語研究

令和5(2023)年3月11日(土) 13:30 ~ 16:00

会場 白河市立図書館〜りぶらん〜 多目的ホール 入場料 無料

講演1 「岩淵悦太郎の話す白河方言を聴こう」 13:35 ~ 14:35
丸山岳彦（専修大学国際コミュニケーション学部教授）
※岩淵の肉声を聴きながら、白河方言を紹介します。

講演2 「岩淵悦太郎収集の貴重古典籍」 14:35 ~ 15:05
斎藤達哉（専修大学国際コミュニケーション学部教授）
※展示している資料の見どころを解説します。

シンポジウム 「白河方言の魅力」 15:15 ~ 16:00
※パネラーたちが白河方言の魅力を語ります。

申込方法 右のQRコードを読み取り、専用のフォームからか、電話で白河市立図書館（0248-23-3250）にお申し込みください。

